

令和4年度の事業評価及び令和5年度の事業概要について

基本目標Ⅲ スポーツによる賑わいとまちづくりの推進

推進項目

- (1) スポーツツーリズムの推進
- (2) スポーツを通じた地域コミュニティの維持・再生
- (3) ホストタウン登録におけるニュージーランドとの交流

施策の実施内容 (DO) 及び評価 (CHECK)

- ・交流人口の拡大を目的としたスポーツツーリズムに取り組むため、コロナ禍で3年ぶりに第11回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会(令和4年10月16日)を開催した。全国31都道府県、1,065人のエントリーをいただき、コロナ対策として実施種目をハーフと10キロの2種目に限定した。
- ・種目を限定したことにより、全体のエントリー数は第8回大会と比較すると777人減となったが、全体の45.7%は県外ランナーだった。コロナ以前よりは参加年代が限定されてしまったが、多くの県外ランナーがエントリーする全国区の大会となってきたと感じている。
- ・今大会は、全日本実業団駅伝(ニューイヤー駅伝2023)に出場した埼玉医科大学グループのメンバー11名等が10kmの部にエントリーするなど、トップ集団ではハイレベルな戦いが繰り広げられた。
- ・40代・50代の参加者が過半数いることから、働き世代のスポーツ活動の支援や女性のスポーツ参加支援という点で参加者の好評価に繋がった大会であったと考える。
- ・日本陸上競技連盟公認大会としては9年目を迎え、今年度はコースの一部変更に伴い、ハーフマラソンと10キロの2つのコースで日本陸上競技連盟公認コースの更新手続きを行った(公認期間:2027年9月29日までの5年間)。
- ・「東京マラソン2023」との一般提携大会として、今年は本大会を通じて3名の選手を推薦した。
- ・市民ボランティアの積極的な参加と地元企業の協力により、参加者と市民の一体感が回を重ねるごとに増し、酒田市ににぎわいを創出することができた。
- ・今大会のゲストランナーとして野々村真さんを迎え(4回目の参加)、ランナーや沿道で応援する方々と触れ合っただき、大会を盛り上げていただいた。
- ・今大会ではコロナ対策として、つや姫「おにぎり」のみの参加賞提供となり、フィニッシュ後の「いも煮」は提供できなかったが、来年度はぜひ「いも煮」の提供を復活させてラ

ランナーの皆様へ庄内の味を振る舞いたいと考えている。

- ・「ささえるスポーツ」の担い手としてのスポーツボランティアの普及と活動の促進を図るため、「酒田市スポーツボランティア会」を新たに立ち上げた。最初の活動として、第11回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会で交通誘導や給水所運営に協力していただいた。
- ・市巡回駅伝競走大会は3年ぶりに大会を開催した。大会には15チーム(1部が9チーム、2部が6チーム)がエントリーしたが、当日、新型コロナウイルス感染症の影響により3チームが棄権となった。前回大会から酒田市陸上競技協会の協力がなくなり、3年ぶりの開催ということもあり中継所の運営等不安を感じる部分があったが、体育振興会等のスタッフや酒田警察署の協力も頂きながら、大きな混乱やトラブルもなく安全安心に大会を運営することができた。
- ・市民体育祭については、コロナ対策として実施種目の見直しや昼食を含まない半日開催の日程にするなど、大会規模縮小を検討して準備を進めてきたが、結果的に大会中止を決定した(開催判断基準として、事前の参加意向調査で参加を希望する地区が15地区以上あった場合は開催するとしていたが、結果的に参加地区が11地区にとどまったため)。
- ・市内在住ニュージーランド出身の方をゲストに迎え、「アドベンチャーツーリズムとSDGs」をテーマに市民向け講座(令和4年12月4日)を開催した。
- ・共生社会の先進国であるニュージーランドから共生社会について学ぶ市民向け講座「公益大生に聴く!ニュージーランドから学ぶ共生社会」(2月18日)を開催した。

施策としての現状評価

- ・コロナ禍で3年ぶりに開催した「湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」は、これまでの開催実績により市民から親しまれており、また全国的にも知名度を上げている大会であることから、施策を推進するためには事業の継続が必要である。
- ・スポーツボランティアについて、賑わいを生み出すスポーツイベントの開催には市体育振興会をはじめとするスポーツ関係団体の協力が不可欠であるため、地域のスポーツ活動において中心的に活躍されてきた方々の知識や経験を活用する仕組みとして施策の推進に有効であると考えます。
- ・市巡回駅伝競走大会はランナーとしての参加だけでなく、交通誘導のボランティアや観客として参加する方々も多く「する」「みる」「ささえる」スポーツの場となっているが、参加チーム及び中継所役員スタッフ等の確保が課題である。
- ・市民体育祭については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止を余儀なくされているが、スポーツを通じた健康増進や地区の垣根を超えた住民同士の親睦を深めることを

目的とした事業であり、施策の推進において大きな役割を担っている。

- ・ニュージーランドとの交流については活力ある地域づくりを促進するため、関係団体と連携し事業を継続していくことが必要である。

改善の内容 (ACTION) / 令和5年度以降の計画 (PLAN)

- ・湊酒田つや姫ハーフマラソン大会について、参加者へのいも煮の提供などコロナ禍以前の状態に戻しながら、スポーツボランティアや地域住民の協力のもと安全安心な大会運営を行い、交流人口の拡大を図っていく。
- ・「ささえる」スポーツの推進を目的に、幅広く市民へスポーツボランティアへの参加募集を呼び掛け、湊酒田つや姫ハーフマラソン大会をはじめとする市主催イベントや、各種競技大会等のスポーツイベントをサポートしていく。
- ・市巡回駅伝競走大会については、令和5年度までの予算措置となっている。コース検討をはじめとする大会運営の見直しを図るため、市体育振興会と協議を継続していく。
- ・市民体育祭をはじめとするコミュニティ振興会及び体育振興会が主催する地区運動会等のスポーツイベントについても、関係者と協議をしながら時代に合った形で世代間交流や地域の一体感が図られるイベントになるよう支援していく。
- ・ニュージーランドとの交流について、ホストタウンとして交流事業や自治体 PR を継続していく。

数値目標

KPI	湊酒田つや姫ハーフマラソン大会・みなと酒田トライアスロンおしんレース大会における交流人口(市外・県外)	指標値 (R6)	現状値	現状値 (R4)
		1,520人 (R11 1,600人)	H30 1,415人	787人

関連事業

No.	事業名	指標			事業費(千円)
		指標名	単位	R3年度	R4年度(決算)
				R4年度	R5年度(予算)
1	スポーツツーリズム推進事業	つや姫マラソン・おしんレース大会における交流人口(市外・県外)	人	感染症拡大防止により大会中止 787人	12,931 13,120

(事業概要)

○スポーツを通じた交流人口の拡大を図るため、湊酒田つや姫ハーフマラソン大会実行委員会に対し負担金を支出する。

○湊酒田つや姫ハーフマラソン大会をはじめとした、市内で開催される競技大会等のスポーツイベントをサポートするスポーツボランティア人材を育成する。
 ○交流人口の拡大を目的とした全国や東北大会等の大規模スポーツイベント開催へ補助金を交付する。

2	スポーツによる地域コミュニティ活性化事業	スポーツ行事への参加者数	人	21,075	300
				21,961	1,670

(事業概要)

○スポーツ活動を通じて市民による地域コミュニティ活性化を図るため、市民体育祭、巡回駅伝競走大会といった市民参加型のスポーツイベントを行う。

- ・酒田市民体育祭
- ・酒田市巡回駅伝競走大会